

科目名	平面基礎 ー 1			科目コード	1001
開講学科	美術学科	単位数	6 (計)	形態	実習
教員名	金田恵美子				
授業の目的及びテーマ					
「描く」の礎は何なのか？幅広い見識と多視点による切口から平面基礎を学習する。 美的形式原理だけに留まらず、各自が各々の中に今必要な基礎を掴んで貰いたい。					
授業概要					
平面基礎Ⅰ・平面基礎Ⅱは一貫した流れの中で授業を取り行う。授業日の午前は講義（座学）を行い、映像媒体に主きを置き、視聴覚から導入し興味、関心を喚起し制作へと誘う。午後は制作に集中し各自の創造力と制作力、そして思考力に正面から向き合い、制約の中での制作に各自、最大限の表現に挑戦する。 平面基礎ⅠおよびⅡでは受講日毎に授業内容を記述したプリントを配布する。					
授業計画					
第 1 回：「平面基礎Ⅰ」に対する受講の心構えと三日間の授業の流れのガイダンス 第 2 回：映像媒体を導入した講義 ー 第 3 回：90cm×180cmの画面に具象形態を用いず、顔料、描法と対峙し、各自思い思いに大きな画面に積極的に自己を関せる表現を試みる。① 第 4 回：90cm×180cmの画面に具象形態を用いず、顔料、描法と対峙し、各自思い思いに大きな画面に積極的に自己を関せる表現を試みる。② 第 5 回：90cm×180cmの画面に具象形態を用いず、顔料、描法と対峙し、各自思い思いに大きな画面に積極的に自己を関せる表現を試みる。③					
第 6 回：映像媒体を導入した講義 ー 第 7 回：美的形式原理に立脚し、平面造形の基礎 第 8 回：墨汁と和紙を素材とした「モノクロームの表現」に挑戦する。水墨の古典的な表現の枠から外れ素材の特性を肌で感じとり、未知の表現に焦点を当てる。① 第 9 回：墨汁と和紙を素材とした「モノクロームの表現」に挑戦する。水墨の古典的な表現の枠から外れ素材の特性を肌で感じとり、未知の表現に焦点を当てる。② 第 10 回：墨汁と和紙を素材とした「モノクロームの表現」に挑戦する。水墨の古典的な表現の枠から外れ素材の特性を肌で感じとり、未知の表現に焦点を当てる。③					
第 11 回：映像媒体を導入した講義 ー 第 12 回：二日間の授業を踏まえて「音・音楽の表現」に挑戦する。各自が音楽ジャンルや曲を選択し自由に表現する。① 第 13 回：二日間の授業を踏まえて「音・音楽の表現」に挑戦する。各自が音楽ジャンルや曲を選択し自由に表現する。② 第 14 回：二日間の授業を踏まえて「音・音楽の表現」に挑戦する。各自が音楽ジャンルや曲を選択し自由に表現する。③					
第 15 回：三日間で制作した三作品の講評および合評を行う。					
テキスト	「平面基礎」		参考文献		
評価方法：					
通信授業は提出課題を以って評価する。（学習指導書参考） 面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。					

科目名	平面基礎 ー 2			科目コード	1001
開講学科	美術学科	単位数	6 (計)	形態	実習
教員名	中川知美				
授業の目的及びテーマ					
「描く」の礎は何なのか？幅広い見識と多視点による切口から平面基礎を学習する。 美的形式原理だけに留まらず、各自が各々の中に今必要な基礎を掴んで貰いたい。					
授業概要					
平面基礎Ⅰ・平面基礎Ⅱは一貫した流れの中で授業を取り行う。授業日の午前は講義（座学）を行い、映像媒体に主きを置き、視聴覚から導入し興味、関心を喚起し制作へと誘う。午後は制作に集中し各自の創造力と制作力、そして思考力に正面から向き合い、制約の中での制作に各自、最大限の表現に挑戦する。 平面基礎Ⅰ・Ⅱでは受講日初日に授業内容のプリントを配布する。					
授業計画					
第 1 回：「平面基礎Ⅰ」に対する受講の心構えと三日間の授業の流れのガイダンス 第 2 回：映像媒体を導入した講義 ー 第 3 回：学内を探索し、美しい肌理を見つけ出し、フロッタージュ（こすりだし）を用いて、ケント紙に写し出す。① 第 4 回：学内を探索し、美しい肌理を見つけ出し、フロッタージュ（こすりだし）を用いて、ケント紙に写し出す。② 第 5 回：学内を探索し、美しい肌理を見つけ出し、フロッタージュ（こすりだし）を用いて、ケント紙に写し出す。③					
第 6 回：映像媒体を導入した講義 ー 第 7 回：テーマを一つ与えて、スケッチブック等にアイディアスケッチに取り組みながら作品に必要な素材を選んでコラージュ（平面上に貼り付ける）を用いて、ケント紙に制作する。① 第 8 回：テーマを一つ与えて、スケッチブック等にアイディアスケッチに取り組みながら作品に必要な素材を選んでコラージュ（平面上に貼り付ける）を用いて、ケント紙に制作する。② 第 9 回：テーマを一つ与えて、スケッチブック等にアイディアスケッチに取り組みながら作品に必要な素材を選んでコラージュ（平面上に貼り付ける）を用いて、ケント紙に制作する。③ 第 10 回：テーマを一つ与えて、スケッチブック等にアイディアスケッチに取り組みながら作品に必要な素材を選んでコラージュ（平面上に貼り付ける）を用いて、ケント紙に制作する。④ 第 11 回：テーマを一つ与えて、スケッチブック等にアイディアスケッチに取り組みながら作品に必要な素材を選んでコラージュ（平面上に貼り付ける）を用いて、ケント紙に制作する。⑤					
第 12 回：映像媒体を導入した講義 ー 第 13 回：二日間の授業を踏まえて、各人がテーマを一つ決めて「自分の世界の表現」に挑戦する。① 第 14 回：二日間の授業を踏まえて、各人がテーマを一つ決めて「自分の世界の表現」に挑戦する。② 第 15 回：三日間で制作した三作品の講評および合評を行う。					
テキスト	「平面基礎」		参考文献		
評価方法：					
通信授業は提出課題を以って評価する。（学習指導書参考） 面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。					